

TOP page

資料室

イベント情報

講師を探す

Worker's 広場

関連リンク

資料室



HOME | 資料室 | 労働組合 | 組織活動 | 労働に対する組織（組合・会社）による相違

労働組合

労働者福祉・共済

一般教養

組織活動

組織運営と法律

労働安全衛生

経営対策活動

教育・宣伝活動

労働時間をめぐる諸問題

教育活動

選挙活動

組合組織（公務員）

教育カリキュラム

[▶ キーワード検索はこちら](#)

労働に対する組織（組合・会社）による相違

皆さんへ質問します。会社で働くことを「労働」「仕事」と呼びます。しかし、労働組合の業務は、労働・仕事とは言いません。労働組合の場合は、労働運動・組合活動と言います。

なぜ、会社では、仕事・労働と言ひ、労働組合は運動・活動と言うのでしょうか。

考えたことありますか！

それでは、ちょっと視点を交えて言いますが、「労働」「仕事」を別の言い方で「働く」と言いますね。働くとは、語呂合わせ、ダジャレではありませんが、「ハタを楽にする」という意味合いがあります。周囲を楽にするということです。

そこで、この周囲・ハタを楽にすることは、仕事・労働を通して行う方法と、もう一つは労働運動を通して行う方法があります。したがって、「働く」ということは、「仕事」「労働」と「運動」「活動」の両方が含まれているのです。

同じ「働く」ことを、会社では仕事・労働と言ひ、労働組合では、運動・活動と言う、ということです。こんな疑問を持ったことありませんか。

それでは、この疑問はそのままにして、会社と組合の組織運営について考えてみましょう。

まず会社の運営ですが、会社はまず「目的ありき」から出発します。起業家・経営者は儲けるという目的を通して社会貢献をします。すなわち「目的」が最初から明確です。このために「会社を興します」。

したがって、会社は目的を最大限に達成するにはどうしたらよいかを考えます。機能的な組織体制を考えます。同時に、そこには「経営の三要素」と言われる「人・モノ・金」が必要ですから、目的の最大化を図る機能的な投資で、人の配置、モノへの投資などを行います。

もうお分かりと思いますが、このように目的ありきから出発する「会社」は、労働者（人）をどう効果的に、機能的に配置し、最大の成果が上がるかを考えます（考えざるを得ない）から、**労働者の気持ち・欲求や要望は「二の次、三の次」となるのです。**

ですから、会社の業務（仕事）は管理を通して遂行されます。管理とは、経営の三要素を支配下に置き、会社目的を最大化するプロセスのことです。したがって、労働（仕事）は従属性をもったものとして、労働法（ワークルール）でもそれを前提にルール化されているのです（労働は上下関係：指示命令・監督下となる）。

管理の具体的遂行は「会社という組織（集団）の意思から個人（労働者）へその意思を反映させ、目的達成を図る」のです。会社という集団を通して個人へ向かいます。ここには、会社の目的達成が第一ですから、労働者の考えや気持ちが基本的に入る余地がないのです。

もちろん、現代の経営は、このような古典的な原理原則では成り立ちませんから、働く労働者の欲求や考えを取り入れ目標管理などによって遂行していますが、基本中の基本はこのように、労働者の意思は労働（仕事）にないのです。

管理はしたがって、懲罰と一体となり、労働者を会社目的達成へ駆り立てるのです。

そこで今度は、労働組合の活動、労働運動について考えたいと思います。

労働組合は産業革命により誕生した「労働者」により、自然発生的に作られました。最初の労働組合誕生は、イギリスと言われています。

もうおわかりのように、労働組合は強制的に誕生したのではなく、労働者一人ひとりの気持ちや考え方が一致し、それが連帯・連携を通し、集団化し、労働組合ができました。

先ほど、会社は「会社という組織をとおして個人に向かう」と言いましたが、労働組合は逆に「個人の意思が連帯し合い、それが集団化し組織化され労働組合となった」。事実は「個人をとおして組織へ向かう」ということで、会社と逆の組織なのです。

この違いから組織運営の基本にも違いがあるのです（会社は三角形、労働組合は逆三角形）。

根本的な違いは、業務を遂行する人々（労働者）の「意思」が入った業務運営なのか否かにあります。この違いが、「仕事」「労働」と「運動」「活動」の違いなのです。

運動とは、人間の生涯を通し、人生や生活をより良くしていく永続的な目標のことを言います（低次元の目標から高次の目標へと永続的に続く）。したがって、時代によって、あるいはひとつの目標の達成を通して、高次の目標が次々に出され、永続的に展開されます。このような運動体が労働組合です。

運動は、一人ひとりの気持ちや欲求・意思が出发点となります。活動は、目標とする運動の実現を図る具体的なプロセスのこと言います。労働者の意思が入った具体的な行動であるがゆえに、活動と言うのです。

このように、労働組合に限らず、その組織の構成メンバーの意思が入った組織行動を「運動」「活動」と言います。労働組合の業務を「仕事」「労働」と言わず「運動」「活動」というのは、言葉にこのような意味があるからです。

さあ、そこで、なぜこのようなことを言ったかということです。組織拡大や組織防衛には関係ないではないかと思われている方もあるかと思ひます。

それは、仕事や労働と捉えると、「やらされ感」が強くなり、主体的な取り組みになりません。組合リーダーが労働組合の一切の行動を、仕事・労働と捉えているとすれば、どんな立派な組織拡大の体制や未組織労働へのアプローチをしても、心が伴っていませんから、未組織労働者の琴線に触れることはできません。

仕事・労働と捉える限り、その行動は業務的になり、労働組合は、なぜか主体性が失われ、運営・管理が

11年・カ働と忘つしている限り、その行動は義務的となり、ラ組合リーダーにから11力が高いといつ深層心理が
脱皮することはできないでしょう。

組合リーダーの取り組み姿勢（態度）に相手を説得する信頼と安心を提供するには、リーダー自身の意思が入った「運動」「活動」による組織拡大でなければならないからです。

資料に関する解説やサイト内ブックマーク、簡単なクイズもできる無料会員登録のお申し込みはこちらになります。

Worker's Library 会員登録
お申し込みはこちらです。

[>>一覧へ戻る](#)

[▶ サイトマップ](#) [▶ このサイトについて](#) [▶ 個人情報保護の取組みについて](#)

[▶ ページTOPへ](#)

[TOP page](#)

[資料室](#)

[イベント情報](#)

[講師を探す](#)

[Worker's広場](#)

[関連リンク](#)

Worker's Library 静岡で働く人のための資料閲覧サイト
JAPANESE TRADE UNION COFEDERATION DB SITE **【ワーカーズ・ライブラリー】**

Copyright© WORKER'S LIBRARY All rights reserved.